

# 平和への祈り

## ～大戦の実情 前編～

今からちょうど70年前の1941年（昭和16年）12月8日、日本はアメリカとの戦争を始めました。今日では、『太平洋戦争』と言われる戦争。当時、日本では『大東亜戦争』アメリカでは『太平洋戦域』などと呼ばれていました。1945年（昭和20年）8月15日に終戦を迎えるまで\*の約3年8ヶ月の間に、およそ300万人以上もの犠牲者を出しました。（\*8月15日は、日本の降伏が公表された日であり、降伏文書に調印した9月2日を終戦の日という説もあります。）

### 【大戦の背景】

～日本が太平洋戦争を始めた背景には、昭和初期の空前の経済危機がありました。その打開策として国家革新が唱えられ、国力の増強を中国の領土確保に求めるようになりました。日本と中国の間では、長い抗争が続けられ、1937年（昭和12年）ついに日中戦争（当時日本での呼称は支那事変）へと突入していきました。1939年（昭和14年）末までに中国へ派遣された軍人は100万人に上りました。

#### 従軍記章の證（上） 支那事変従軍記章（下）

日中戦争（支那事変）が長引く中、昭和14年に記念表彰として記章が制定され、従軍した軍人に与えられました。（昭和21年失効）

青銅製で、菊の御紋・やた烏・軍旗・軍艦旗などが描かれています。

この記章は、当時陸軍の二等兵であった『外蘭克己』という人物に授与された記章です。



【鹿児島市喜入の内木場様より寄贈】

～日本の中国への軍事行為は、アメリカ・イギリスといった国々から批判され、それらの国々との関係が悪化していきました。日本では、中国を支援するアメリカ・イギリスからの支援ルート（援蒋ルート）の遮断と東南アジアの資源の確保（日本の資源の輸入が制限されていたため）を目的とした対アメリカ・イギリスとの戦争論が高まり、1941年12月8日の『真珠湾攻撃』によって太平洋戦争が始まりました。

### 【序盤の快進撃】

真珠湾攻撃から約半年間、日本軍は勝利を重ね、進出圏を広げていきました。（図の黒く塗られた部分は、開戦時の日本の領土。赤線は1942年の日本軍最大進出の範囲）



### 【国民の生活】

軍事優先のもと、国民は我慢と簡素な生活を強いられました。

#### 1938年（昭和13年）

- ・国家総動員法交付（国民の生活全般を国家が統制するという法律）
- ・東京のバスを木炭車に改造

#### 1939年（昭和14年）

- ・鉄製品の回収が始まる
- ・ネオン全廃、パーマネント禁止
- ・国民徴用令（国民の軍需工場への動員）公布

#### 1940年（昭和15年）

- ・隣組制度の発足（監視と互助組織）
- ・大政翼賛会発足（←統治しやすい体制づくり）
- ・砂糖・マッチの切符配給制

#### 1941年（昭和16年）

- ・6大都市に米穀配給通帳制（東京・横浜・名古屋・京都・大阪・神戸）
- ・東京でタバコの一人一個売り厳守、酒の切符配給制
- ・国民学校令公布

#### 1942年（昭和17年）

- ・衣類の点数切符制、味噌・しょう油・塩の配給制



#### 大崎国民学校校旗

昭和16年3月1日、国民学校令が公布されて、それまでの小学校は国民学校となりました。当時日本人は皇国民（天皇の統治する国の国民）と自称する風潮が強く、小学校は『皇国民を育てる学校』とされていました。

また小学生は少国民（年少の皇国民）と呼ばれていました。大崎国民学校校旗は、現在の大崎小学校が大崎国民学校と呼ばれていた頃のもので、【大崎町郷土資料展示室所蔵】

1942年前半までの日本軍の順調な戦勝は一転し、日本は島々での死闘・玉砕、本土空襲、特攻、沖縄戦、広島・長崎への原爆投下といった悲惨な連戦連敗の道をたどっていきます。左上の支那事変従軍記章の受賞者の外蘭氏も、その戦いの中で、短い生涯を閉じました。（後編で詳しく紹介します）

11月23日（水）の『ふれあいフェスタ IN おおさき』では、外蘭氏とその兄の兄弟二人を主人公とした企画展『平和への祈り～若者たちの遺品から～』を開催し、遺品や手紙などを展示します。ぜひお越しください。

大崎町教育委員会

\*主要参考文献『あの戦争は何だったのか』保坂正康著、『太平洋戦争』小林弘忠著、『戦時用語基礎知識』北村恒信著